八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 鍬類	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品−実物　○ 製品−レプリカ　○ 製品−模型　○ 製品図面　○ 写真等　○ 図書掲載　○ その他

資料種類:			
☒ 人力用具	☒ 手押式	☒ 耕耘用	☐ 調製用
☐ 畜力用具	☐ 乗用式	☒ 施肥播種	☐ 施設類
☐ 原動機具	☐ 牽引式	☒ 管理用	☐ 機素
☐ トラクタ具	☐ 定置式	☒ 収穫用	☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y031

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明　　製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

鍬類は、Y030で述べたように多様な用途があるが、永年の利用によってより効果的に作業できるように柄の太さ、柄角θや刃床部の形状が変り、それぞれに名称がついた。普通鍬ではθの大きい順に打鍬(すべてが堅牢で85＞θ＞60度の耕起・土工用、立姿前進耕)、打引鍬(打・引鍬の中庸で多用途型)、引鍬(柄長く軽量で35＞θ＞40度の作溝・畦立て・中耕除草・溝さらえ用、斜後退耕)に発展したし、全体図2の発展過程に示すように耕起時に貫入し易いように3～4本の爪状に改良された備中鍬(耕起・畦崩し・芋掘り用)、金鍬で土の付着が少ないように窓を開けた窓鍬、根切りや強固な土地を起す唐鍬や鶴嘴、軽量で刃幅の広い草削り・万能などがある。　　2014年調査時に未確認

利用経過収集記録意義等

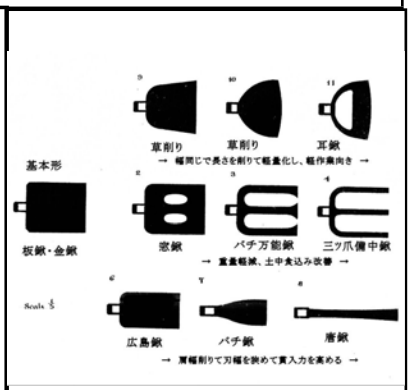
明治期に輸入されたスコップ・ショベル等は、当初は幅広で掬い上げを目的とするスコップ、踏代があって踏鋤と同様に踏込んで使うショベル、さらに幅狭く掘るまたは溝をさらう目的のスペードの区分があったが、国内では混同して使われている。さらに1870年代に政府がショベルを輸入して府県に配布したところ、使い勝手が悪いとされて普及しなかったが、1900年頃に軍隊が採用して日露戦争で使ってから普及するようになったという秘話がある。

仕様書_解説等

全体写真1番目の鍬類は、右1-2番目：引鍬、3番目：窓鍬(北海道で開発された開墾用の島田鍬、根に当たると逃げて貫入する)、4番目：根切り機、5番目：恐らく芋掘り用の4本備中鍬

関連図　1-2は、標本拡大写真
　　4：スコップ、ショベル、スペード

右に全体図



外観特色関連図等

資料の所在　写真のみ

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編